

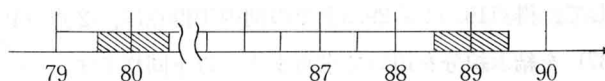
(例 8) 次の表は、あるテストの得点の度数分布表から、T得点を求めるために作ったものです。

(表 9)

| (1)<br>階 級(点) | (2)<br>階級の上限 | (3)<br>度 数 | (4)<br>累 積 度 数 | (5) %<br>累積相対度数 | (6)<br>T得点(表 8)の |
|---------------|--------------|------------|----------------|-----------------|------------------|
| 90 ~ 100      | 100.5        | 2          | 243            | 100             |                  |
| 80 ~ 89       | 89.5         | 13         | 241            | 99              | 73               |
| 70 ~ 79       | 79.5         | 25         | 228            | 94              | 66               |
| 60 ~ 69       | 69.5         | 51         | 203            | 84              | 60               |
| 50 ~ 59       | 59.5         | 52         | 152            | 63              | 53               |
| 40 ~ 49       | 49.5         | 47         | 100            | 41              | 48               |
| 30 ~ 39       | 39.5         | 28         | 53             | 22              | 42               |
| 20 ~ 29       | 29.5         | 16         | 25             | 10              | 37               |
| 10 ~ 19       | 19.5         | 8          | 9              | 4               | 33               |
| 0 ~ 9         | 9.5          | 1          | 1              | 0.4             | 24               |

計算順序は、次のようになります。

- (1) 階級の欄で、90~100は、他の階級と幅が違っていますがさしつかえありません。なお、この例では、階級の数10ですが、実際の場合、もっと多く、できれば、20以上が望まれます。
- (2) 次に、各階級の上限を書きます。例えば、階級80~89は、79.5以上



で、89.5未満の区間  $[79.5, 89.5)$  と考えます。この理由は、次の通りです。得点はふつう、正の整数で表され、これは離散変量なのですが、この離散変量の分布を、連続変量の分布である正規分布と対応づけてゆくために、連続変量あつかいをするのです。便宜上89.5を上限と考えます。

- (3) 度数の欄を記入します。ふつう、得点をT得点に変換する場合は、度数が多いほどよく、目安として、度数の合計は200ぐらいいはほしいようです。
- (4) 累積度数の欄は、下の方(得点の低い方)からの累積度数を記入しま